

本年度の成果と次年度への課題

1 成果

小・中学校9年間で児童生徒を育てるという共通認識を全職員がもち、小・中学校が連携して基本的な生活習慣の定着を目指し研究実践することで、各取組においてその効果が高まってきている。また、学校にいる大人が全員で児童生徒を見守り育てようとする意識や環境が醸成されつつある。

授業では、基本的な生活習慣の定着観点から、「学ぶ意欲」に焦点を当て、小・中学校共通した授業像の方向性を求め、児童生徒の側に立ち、「学ぶ意欲」をもたせ、それを継続させ、「分かった」「できた」という達成感や満足感までの一連の流れを意識して授業を展開するようになった。

養護教諭部会、生徒指導関係、PTAの会合等で「あいさつ」「返事」「家庭学習の習慣」について、必ず紹介するようにしたので家庭、地域への啓発もできた。今後は、より実践的な協力体制を築きたい。

2 課題

児童生徒理解に努め、児童生徒の発達段階に応じた教師の姿勢をより一層進めるようにしたい。また、落ち着いた学習の雰囲気、環境、教室の掲示物などそれぞれの環境整備等を充実させ、教科経営、学級経営も大切したい。

小・中学校9年間で児童生徒たちを育てるという意識の下、小学校では中学校生活の土台となる基礎学力や人間形成の育成に臨むようにした、また、中学校では小学校で培われた力をより一層伸ばすよう努めたい。

最後に、ある先行研究では児童生徒の学びの習慣化に向けた四つの提言と啓発のポイントを次のように示している。(印は啓発のポイント)

提言1「家で勉強する習慣を」

学習する時刻、時間、場所の設定

学習に集中できる環境づくり(テレビを見ながらなど、「ながら勉強」をしない)

提言2「朝食をしっかりとる習慣を」

主食とおかずを食べる朝食

朝食をとる時間を考えた起床時刻の設定

提言3「適切な睡眠をとる習慣を」

就寝時刻を考えた帰宅後の生活リズムづくり

提言4「テレビやゲーム、携帯電話、パソコンの使用はルールを決めて」

テレビ、ゲーム、パソコン、携帯電話等の使用時間等のルール

読書に親しむ時間の設定

本年度は、「あいさつ」「返事」「家庭学習」の定着の視点に立ち、研究を進めた実績をこの提言を参考に次年度以降の研究内容を見直し、更に学校、家庭、地域の三者が連携した学びの習慣化のための基盤づくりに努めたい。